

発刊のことば

大豊町史はさきに古代近世編（上巻）を刊行しこの度近代現代編（下巻）を発刊する運びとなりました。

近代現代編は、明治維新から太平洋戦争後の復興期を通じて経済成長の時代から今日に至るまでの百数十年にわたる本町の歩みたどった歴史を政治・経済・社会・文化等の各方面から明らかにしたもので、現代に生きる大豊町民が、困難かつ苛酷な条件の中でたくましく生き抜いて来た幾多先人達の郷土に注いだ情熱と汗と膏の山村農民の労苦を窺い知る必読の内容となっております。

昭和三十年三月三十一日嶺北十一か町村のうち嶺東四か村の大同合併により現在の大豊町が発足し、昭和六十年合併三十周年を迎えたのでありますが、奇しくも本書は合併三十周年記念事業となりました。更に、これからの三十年即ち高速交通、国際化、情報化、高齢化社会という新しい時代の到来に向けて本町が第一歩を踏み出した年であることを考えましたとき本書の刊行をみたことは誠に意義のあることであります。

また私にとりましても上巻編纂時の事務局長として刊行に携わっただけにその感概も一入なるものがあります。

暖衣飽食の時代といわれる今日、郷土の先人達の偉業に改めて敬意を表し、感激を新たにすると共に、本書が二十一世紀に生きる本町町民の平和で豊かな暮らしの指針となることを願って止みません。

本書編纂に当たり執筆を担当されました先生方、監修の労を煩わしました県立図書館の広谷先生はじめ関係者の皆様、貴重な史料・文献を提供されました各位に深甚なる謝意を表し発刊のことばといたします。

昭和六十二年三月

大豊町長

後 辺 盛 男

発刊を祝す

この度、昭和四十九年に発刊されました大豊町史の古代・近世編に引き続き、その完結編ともい
うべき近代、現代編が上梓の運びとなりました。

待望久しかった私達にとりまして、まことに喜ばしいかぎりであり、町民の皆様と共に心から祝
福申し上げたいと存じます。

町史の上巻に着手して以来、十有余年の歳月を費して、膨大な町史が完結しました。これは「温
故知新」という格言の通り、故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知ることであり、高速自動車
道の開通や高度情報化等の新しい時代を迎えようとする大豊町民にとってまことに意義深いこと
であると存じます。

いずれの時代の人々も、豊かで平和な家づくり郷土づくりを願って、生涯を額に汗して今日の発
展を見るに至ったのであります。私達はそうした時代の歴史を繙くことによって、先人達の遺跡
を訊ね、新しい時代への方策を打ち立てるべきであります。

また最近は社会情勢の急激な変革によって貴重な文化遺産や歴史的な資料が損なわれ、散逸しよ
うとしております。明治以降わずかに百二十有余年ではありますが、その間公的な文書や、旧家の古

文書等も失われ勝ちなときに当たり、多年の懸案でありました大豊町史の完成を見、後世への貴重な遺産を得たことは時宜を得た快挙であり、また郷土発展のために大きく寄与するであろうことを確信するものであります。

本史の編纂に当たられた編集委員の先生方には膨大な資史料の収集と解明に献身的なご尽力を頂き、多年に亘る執筆編集がここに完結し、後世に誇る町史が刊行されました。その並々ならぬご労苦に対しまして深甚の敬意を捧げますと共に厚くお礼を申し上げる次第であります。

終わりに本史がより多くの方々に愛読されることを念願して発刊のご挨拶と致します。

昭和六十二年三月

大豊町教育長 永 森 信 良

町史発刊を祝す

昭和四十九年三月、故西村自登先生はじめ関係各位の絶大なる御努力によりまして、待望久しかった大豊町史（古代近世編）の発刊をみてから、十三年の歳月が流れ、この度、大豊町史の後編ともいべき近代現代編が発刊される運びとなりました。このことは、町民にとりまして誠に慶ばしい限りであり、衷心よりおよろこび申し上げます。

昨今の世相をみました時に、産業の都市集中化に伴い、一方ではわれわれ山村において過疎化現象をもたらし、大きな社会問題としてようやく諸種の対策が講ぜられるようになったのでありますが、わが大豊町においても人口の減少、特に青年部層の流出が激しく、本町の将来にとって憂慮すべき実態が続いているのであります。このように物質優先に走りがちな世相では、どうしても精神文化がうすれて来ている感を深くするものであります。

この時に当たり、本町史によって先人たちの築きあげてきた貴重な文化を、年代を追って記録的に詳述して、後世に伝えることはまことに意義深いものがあります。

町史が明日の大豊町を考えるその端緒となるためにも、より多くの人に愛読されんことを念願し、本町史編さんに当られました編さん委員の方々をはじめ、教育委員会、関係者の並々ならぬ御

協力に対し、深甚の敬意を表しおよろこびと致します。

昭和六十二年三月

大豊町議会議長

北村 寿夫

序に代えて

大豊町は昭和四十九年に町史の上巻ともいうべき、古代近世編を刊行しましたが、これを承けてこのたび近代現代編を発刊することになりました。

昭和五十七年九月に十一名の編集委員が委嘱を受け、三年計画で完成すべく、史(資)料の収集・調査に着手しました。

明治維新から一世紀余の歳月の間に、村役場の災害や、町村合併による庁舎移転などによって多くの公的記録が失われております。

太平洋戦争の戦中戦後を通じて社会の機構と生活様式が激変する中で、民間の古文書や史料類もいつの間にか散逸し、その上農山村の本町で始まった、人口の過疎化がこれにいつそうの拍車をかけております。

このようなことで、十分な資料の整わないままに、編集委員が手分けをして執筆に入り、自らの手で監修・校正を終わり、このほど広谷喜十郎先生に、最後の校閲をお願いしました。

専門家でない私どもが、明治維新から大豊村の誕生と、その後の発展を叙述したので、脱漏も多く事歴について詳述し尽くしていないうらみがあります。

しかし、これを読まれた町民の方々が、百事一新といわれた、明治の夜明けのころから、幾多の困難な時代を乗り越えて郷土発展のために、先人たちがいかに貢献されたかを読みとっていただき、今後の大豊町発展の糧となれば、この上ない幸いと存じます。

終わりに貴重な史料を提供して下さった各位と、膨大な原稿の校閲と助言を賜りました、県立図書館の広谷喜十郎先生に対し、心から謝意を表する次第であります。

昭和六十二年三月

大豊町史編集専門部会長

都 築 建 康